

美浜レポート

2011年2月20日



民主党

〒261-0004 千葉県美浜区高洲 3-4-12-101

TEL043-277-1212 Fax043-278-9966

E-mail info@fusemasayoshi.org

千葉県議会議員

布施貴良

民主党の現状を憂うる

私たち地方議員は、歯を食いしばって頑張ります



民主党千葉県第1区総支部副総支部長

千葉県議会議員 布施貴良

菅内閣と民主党にとって、新年度予算と関連法案の成立が至上命題の国会情勢の中で、2月17日16人の小沢系の衆議院議員が会派を離脱したと報道されました。このような行動は、統一地方選挙に向けて頑張っている私たち地方議員には、まったく理解が出来ません。容認できるものでもありません。

彼らは「マニフェストの見直しに反対し、国民との約束の実現に取り組む」、「マニフェストと照らし合わせて予算案等に反対もありうる」と主張しています。新年度予算案が関連法案を含めて成立しないとなれば、国民生活は大混乱に陥り、民主党政権の統治能力がまさに喪失したという事態となります。今は、全党が一致結束して新年度予算案と関連法案の成立に全力を挙げるべきです。

そのようなことは承知の上で、民主党執行部の小沢元代表の処分に対する牽制、批判と思われませんが、私には「ひいきの引き倒し」のように思えます。私は、小沢元代表は民主党政権誕生の最大の功労者であり、だからこそ政権から引きずりおろされた自公を中心とした野党の目の敵となっていると思います。

「政治とカネ」の問題について、マスコミの報道姿勢は公平と思えない感じがしています。私の記憶では、ある新聞で「小沢氏は、20年間に19億円という巨額の政治資金を集めた・・・」と報道されたことがありました。確かに「19億円」は私たちにとっては巨額です。しかしこの間、政権党にあった自民党の派閥領袖クラスの「大物」政治家は、年間数億円の政治資金を集めているのです。小沢氏は、その数分の1にすぎないのに、「金権政治家」の代表と言わんばかりのこのような報道姿勢は納得がゆきません。

ただ、今回の検察審査会の強制起訴の理由とされた土地取得に関するカネの流れ等の問題について、私としては政治倫理審査会にしても、証人喚問にしても小沢氏は堂々と出席して潔白を主張して欲しかったと思います。それがなかった以上、「党员権停止」程度の処分はやむを得ないと思います。

岡田幹事長は、会派離脱の16人に対して「政権党の自覚を持ってほしい」と述べていますが、まさにその通りです。私たち地方議員は、民主党が市民・国民の皆さんの期待にこたえられるように、寒中震えながら早朝の駅前活動、木枯らしにもめげずに街頭宣伝やチラシ入れ、あるいは有権者回り等を必死に活動しています。

4月の統一地方選挙は、大逆風の中の戦いを覚悟しておりますが、これは自らの選択の結果であります。ある本の一節に確か「人生は、人間の自主決定と避けがたい宿命との、相争い、戦うところにある」とありました。

私は、自ら選択した道を信念を持って、歯を食いしばり「市民の生活が第一」の目標に向かって頑張り貫きます。皆様のご理解とご支援をよろしく願いいたします

子ども手当法案の早期成立を

2011年度の子ども手当の成立に向けて、各党との調整が続けられていますが、厳しい状況になってきています。

もしこのまま廃案となれば、現在の子ども手当法は終了し、児童手当が復活してしまいます。しかし、そうなると市町村の電算システムを変更する必要があります。これには巨額の費用が必要となります。

子ども手当には、財源問題等の課題がありますが、このような混乱を避けるためにも、各党の調整を急ぎ、子ども手当法案の早期成立が必要です。

子ども手当の必要性

① 少子高齢化への対策です。2010年現在は、3人の現役世代で1人の高齢者を支えています。やがて1人の現役世代で1人の高齢者を支える状況になると言われています。

② 日本における子どもの貧困率が欧米諸国より高くなっています。日本の貧困率は、14.2%と、OECD諸国平均の12.4%より悪いのです。母子家庭等の子どもの貧困率は54.3%とOECD諸国(平均30.8%)中最低となっています。

③ 日本政府が子育ての支援にかけている予算は、GDP比でスウェーデンの3.21%、フランス3.00%、ドイツ2.22%に対し、日本が0.81%と先進国中最も少ない国の一つです。(ウイキペディア参照)

④ 国立社会保障・人口問題研究所によれば、理想とする子供の数を持たない理由のトップは、子育てや教育にお金がかかりすぎるからが、およそ3分の2を占めて

います。

⑤ こうしたことから、次代の社会を担う子ども1人ひとりの育ちを社会全体で応援する。

○ 子育ての経済的負担を軽減し、安心して出産し、子どもが育てられる社会をつくる。

⑥ このため

○ 中学卒業までの子ども1人当たり年31万2000円(月額2万6千円)の「子ども手当」が創設されました(平成22年度は半額)。

外国の児童手当・子ども手当は

○ フランス(所得制限なし)

第1子 なし。第2子 1万5千円、

第3子 2万円

○ ドイツ(所得制限なし)

第1子から3子 2万1千円

第4子から2万4千円

○ イギリス(所得制限なし)

第1子 1万4千円 第2子 9千円

○ スウェーデン(所得制限なし)

第1子、2子 1万4千円

第3子 1万7千円

第4子 2万4千円



千葉市議会議員布施貴良のプロフィール

1947年 千葉県山武郡横芝光町(旧匝瑳郡光町)宝米に生まれる。実家は専業農家、7人兄妹の末子。

1966年 千葉県立匝瑳高等学校卒業。千葉県職員となる。この間労働運動に参加。

1972年 県職員を辞し、旧日本社会党千葉総支部書記となる。

1979年 千葉市議会議員選挙に立候補し初当選。現在市議8期目、副議長2回等歴任。

〔現在〕

議会関係：千葉市議会議員8期目、民主党千葉市議会議員団幹事長、

保健消防常任委員会委員長、保健所運営協議会委員。

民主党関係：民主党千葉県連地方議員団長、同党千葉県第1区総支部副総支部長。

地域関係：高洲三丁目自治会副会長、福祉の街美浜をつくる会代表。